

優しい猿の悲しい物語

所在地:栗原 1-4-25



猿さる仏塚ぼとけづか



島根小学校の西側の校門前に、庚申塔こうしんとうが三基並んでおり、ここは猿仏塚と呼ばれています。庚申塔は、庚申待こうしんまちという行事の際に立てられました。庚申待は江戸時代の庶民が60日に一度おとずれる庚申の日に、皆で集まって一晩中酒食を共にする行事です(文化財豆知識参照)。庚申の「申」という字は、「しん」のほかに「さる」とも読み、これは「猿」に通じます。そのことから、猿仏塚には、猿に関する悲しい昔話が伝わっています。

昔、このあたりの農家に一匹の賢い猿がいました。ある時、農家で寝ていた赤ん坊が急に泣き出しました。猿は、赤ん坊がお風呂に入れてもらうと泣き止むことを知っていたので、湯を沸かして赤ん坊を風呂に入れてあげましたが、熱湯だったため赤ん坊は死んでしまいました。猿に悪気はなかったものの、罪の意識に悩み、食事もとらずに猿は赤ん坊の墓を守り続け、墓前で餓死してしまいました。村人はその猿を憐れんで、「仏になって子どもたちを守っておくれ」と、現在、猿仏塚の立っている場所に手厚く葬ったと伝わっています。後に、猿仏塚は子どもの厄除けとして信仰されるようになり、子どもが病気になると泥団子を供えて願掛けし、治ると米団子を供える風習となったそうです。

文化財豆知識 人間の体に虫が！三戸さんしの虫と庚申塔

三戸の虫とは、中国の民間信仰である道教に登場する三匹(上戸・中戸・下戸)の虫です。人間の体内に住み、庚申の日の夜に、睡眠中の人の体から抜け出てその人の罪を天帝に密告するといわれ、密告された人の寿命が縮むと信じられています。そこで睡眠中に密告されるのを防ぐため、庚申待を行い、一晩中起きているようになりました。そして、庚申待を三年間継続すると、その記念に皆で庚申塔を立てるようになりました。

